



茶

いよいよ一番茶!

茶栽培農家として
最も忙しい時期です。
体調を万全に!



農業経営支援課
山本 尚充

《気温雨量の推移》

三寒四温を繰り返しながら徐々に春の陽気が感じられるようになりました。萌芽の早晩は、1月より2月、2月より3月の気温が大きく影響します。今後の気温に注意しながら、一番茶の摘採計画を立てましょう。各地域の営農経済センターでは、一番茶前（3月下旬～4月中旬）に生育調査を実施しています。これらの情報も上手に活用しましょう。

今月は、移動性高気圧が日本の上空を最も多く通過する時期です。特異な例として、夕方まで小雨が降っていて宵から夜半にかけて急速に晴れ上がると、放射冷却により凍霜害が発生することがあります。今一度防霜施設を点検し、万全を期してください。

《今の茶園は...》

12月1日～2月28日までの90日間のうち、雨天日は4日程度と少なく、茶園は異常な乾燥状態が続きました。特に1月22日～2月14日まで寒波が続き、一部の茶園では枝が凍結し、「青枯れ」が発生しました。寒さを受けた茶園は樹勢が低下しているため、葉面散布または、液肥や即効性肥料を施用し、樹勢回復につとめましょう。

《病害虫防除》

今月はカンザワハダニ、コミカンアブラムシなどが発生します。特に寒さを受けた茶園ではカンザワハダニの多発が予想されます。寒さを受けた茶園は必ず防除をしましょう。

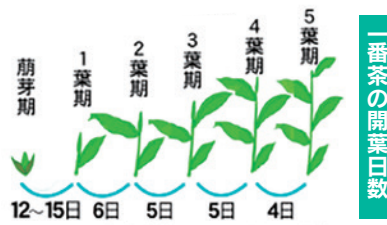
《茶園を観察しよう》

越冬芽は、平均気温が13℃くらいで萌芽します。気温の上昇で越冬芽の包葉が展開して、

中の芽が半分以上見えた状態を「萌芽」と言います。萌芽を確認してから5～6日くらいで、茶園全体の70%が萌芽した状態を「萌芽期」と呼びます。茶園をまわって萌芽をチェックし、その後の進行も細かく記録しながら計画的な摘採作業を行います。

今月のワンポイントアドバイス!

新葉を一枚残す位置で摘採



※気象条件によって異なります。